

2018年6月26日

医療経営論⑩

経営指標を考える

担当 安川文朗

講義のゴール

病院の経営指標の要点を整理する

公立病院の実際のデータを使って、経営分析指標を作成してみる

医療機関の経営指標とその意味

医療機関の経営指標は、

- ・経営における「収益性」⇒ どれくらいの収益が確保されているか
- ・経営の「安全性・安定性」⇒ どのくらい経営の持続性があるか
- ・経営の将来性を担保する「機能性」⇒ 今後どんなサービスが提供可能かの三つの視点から評価する。



開設主体間比較、地域性比較などが可能

医業利益率

医業利益(=医業収益-医業費用)

医業収益

* 経常利益率→医業利益、医業収益にそれぞれ医業外利益と医業外収益を加えたもの

総資本医業利益率(ROA)

医業利益

総資産 (=総資本 + 総負債)

医療機関の「元手」でどれくらいの収益をあげられたか

総資本回転率

収益

期首・期末平均資本

売上高(医業収益)を総資本で除した比率。1年間に総資本の何倍の収益があったかを示すもの

人件費、医薬品費、経費等比率

それぞれの費用の(医業)収益に対する比率。当該収益をあげるためにどれだけの費用をかけたかを示す指標

自己資本比率

$$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100 \quad * \text{総資本} = \text{自己資本} + \text{負債}$$

経営資本の安定性や健全性を見る指標 ⇒ 自己資本比率が低いと将来の負債負担の拡大などのリスクが予測される

借入金比率なども重要な指標

流動比率

$$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

1年以内に返済すべき借金や未払金に対して、どれだけ現金や現金化出来る資産を持っているかを示す指標

⇒ 流動比率が大きいほど、支払い能力に余裕がある

実際の公立病院の経営パフォーマンスをみてみよう

データ: 総務省「地方公営企業年鑑・病院事業編」

全国の都道府県・市町村立病院の施設特性、財務状況、経営分析指標について、「個票」として毎年公開



公立病院の経営について、データから分析するうえで必須の資料
+
病院個別の経営データが閲覧できる唯一の資料

公立病院のデータから

- 地域の基幹病院としての機能をどの程度充足しているのか
- 人件費、材料費、薬剤費などのコスト管理がどの程度効率的に実施されているか
- 人材の安定的確保ができているか
- 地域他施設との連携がどの程度行えているか
- 財務上の独立性（繰入金依存体質からの脱却や新規事業への柔軟な投資など）がどの程度実現しているか

データによる公立病院経営分析

- ①HPにアップされている「首都圏公立病院事業データ」を開き、いくつかの経営指標を作成してみよう
- ②データを新規エクセルにコピーし、分析ツールを使って簡単な統計解析を行ってみよう

*この作業は煩雑で時間がかかるため、コピーの仕方のみ講義中に説明し、コピー済みのファイルをHPにアップしておきますので、ダウンロードして確認してください

(1) 公立病院の経営分析に必要な経営指標の作成

① 経常収支比率 $(\text{医業収入} + \text{医業外収入}) / (\text{医業費用} + \text{医業外費用}) \times 100$

医療機関の全収入と全費用との関係を見ることで、当該医療機関が「常態として」どのような経営構造になっているのかを判断する

② 医業収支比率 $\text{医業収入} / \text{医業費用} \times 100$

医療サービスの提供に特化した収支の関係を評価することで、当該医療機関の医療提供体制の状態を評価する

③ 職員1人1日あたり診療収入(医師、看護師)

$\text{患者1人1日あたり収入} \times \text{職員1人あたり患者数}$

当該医療機関の職員の生産性を評価

④ 病床あたり診療収入/診療費用

$\text{入院総収益} / \text{病床数}$
 $\text{総費用} / \text{病床数}$

当該医療機関の資源(病床)が生み出す収益

経営パフォーマンスの解析について

①まず、データベースにある経営指標をそのまま使って、各自が最も関心のある経営指標をもとに、その病院の経営の特徴を記述してみよう

②つぎに、データベース全体を利用して、「公立病院の経営の特徴」を分析してみよう



- 例)
- ・経常収支(経常損益)が大きい医療機関は、費用構造上どのような特徴があるのか？
 - ・患者数や病床利用率の多寡を決定する医療機関の経営的要因は何か？

分析モデルの例

経常損益に影響を及ぼす要因 ⇒ 人件費率、病床数、病床利用率、
平均在院日数、1日平均患者数

医師1人当たり入院収入 ⇒ 平均在院日数、平均入院患者数、看護師数、
病床数

エクセルの分析ツールを使って、簡単な分析を行ってみよう

エクセルの統計ツールの使い方は、7月3日の講義で説明します。

各自、必ずHPの「練習用データベース」をダウンロードして、USBに入れておくこと